

《令和3年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
阿南市在宅医療・介護サービス事業所連絡会（全体会）

開催日：令和4年1月18日（火）

時 間：14:00～16:00

場 所：阿南市役所 308 会議室

目 的：同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
在宅医療・介護に関わる業種ごとに設立した部会で全体会を開催し、意見交換
を通じた運営や資源の把握、課題の抽出等を行う。

参加者：11名 ※各部会長

- ・グループホーム部会
部会長：井出 主樹（グループホーム笑顔毎日 管理者）
- ・介護老人保健施設・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション部会
代 理：甘利 克征（介護老人保健施設 正静絹 事務長）
※部会長の小島淳（介護老人保健施設 阿南名月苑 主任）は所用で欠席
- ・特別養護老人ホーム部会
部会長：久世 光洋（特別養護老人ホーム ヴィラ羽ノ浦 施設長）
- ・（看護）小規模多機能型居宅介護部会
部会長：木村 賢徳（多機能ホームキムラ 管理者）
- ・居宅介護支援事業所部会
部会長：山脇 敦子（心和会在宅介護支援センター悠和 管理者）
- ・養護・軽費老人ホーム部会
部会長：高崎 泰規（ケアハウス タラサ双葉 施設長）

- ・地域共生推進課 課長 日下 浩之
- ・地域共生推進課 主査 松崎 由美
- ・地域共生推進課 事務主任 織原 裕希
- ・介護保険課 主事 福島 康人
- ・在宅医療・介護連携支援センター センター長 湯浅 祐司

(1)挨拶：阿南市地域共生推進課 日下浩之課長

(2)本会について事務局からの説明

同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
在宅医療・介護に関わる業種ごとに設立した部会で全体会を開催し、意見交換を通
じた運営や資源の把握、課題の抽出等を行う。

(3)自己紹介

(4)意見交換

◆職員採用への取り組み

○現状について

- ・施設、事業所の職員不足は問題である。
- ・専門職（看護職員・（主任）介護支援専門員等）の有資格者の採用が困難。
- ・職員の高齢化でこの先が不安である。
- ・ハローワーク等に求人をしているが面接者はいない。
- ・企業説明会に参加しても相談者が来ない。
- ・阿南市役所よりも高校訪問をした際に聞いても、高校生等の若い世代の希望者はいなかった。
- ・新卒者の採用はゼロである。
- ・阿南市には福祉人材の養成学校等が無いので確保に困難。

○取り組み事例について

- ・職員確保は職員の紹介者が多い。職員紹介者制度を設けて、職員確保をしている。
- ・職員の離職を無くすため、事業所の雰囲気づくりや働きやすい環境・福利厚生の上昇に努めている。
- ・HP等をリニューアルし、まずは事業所・施設を知ってもらうように取り組んでいる。
- ・職場体験等を受入れ、施設を体験してもらい先行投資として取り組んでいる。
- ・助成金を活用して施設のPRを行い、採用に繋げる取り組みをしている。

○これからの展望等について

- ・まずは、阿南市の福祉に魅力を感じてもらうようにPRしていく。
- ・人材育成をしていくために、勉強会・研修を開催していく。
- ・事業所間で情報交換をして良い取り組みを実践していく。
- ・職場体験を受け入れるだけでなく、出前講座など施設等からPRへの取り組みを行う。
- ・専門資格を持っているが資格の活用をしていない、また、仕事をしていない方に福祉現場へ就職してもらえよう、阿南市と連携してLINEや広報誌等で情報発信の企画等を考えていく。
- ・医療も同様の悩みがあるので、医療と介護が一体となって取り組んでいく必要がある。
- ・人員配置など、阿南市独自ルールなどの検討をして欲しい。
- ・エッセンシャルワーカーとして注目されていることを強みにPRしていく。

○その他

- ・介護保険課より介護職員等の賃金アップについて、令和4年2月に通知が出される予定なので確認して、魅力発信に繋げて下さい。

◆部会運営の在り方について

- ・最低、年2回は部会の開催を行う。
- ・年1回は、部会長が集まって情報共有を図る。
- ・部会の運営は、部会長の交代を含め部会主体で行っていく。
但し、部会の運営は阿南市在宅医療・介護連携支援センターへ相談の上行う。
- ・議事録は部会で行う。
※様式は阿南市在宅医療・介護連携支援センターで統一。
- ・部会へは、阿南市からも参加をする。

◆その他

○医療よりの相談

医療のソーシャルワーカーより、居宅介護支援事業所のケアマネが入院をしたことを知らないことが多い。また、利用者もケアマネの名前を知らない等で、サービス利用事業所に問い合わせさせてケアマネを調べる人が多い。また、ケアマネに情報提供を問い合わせてもなかなか頂けない、頂けない場合もある。しかし、退院時には情報を送ってほしいと言われて連携が上手く図れないケースが多くなっている。

⇒居宅介護支援事業所部会で議題に上げ、改善の検討を行い、連携強化に繋げる。

- ・部会での意見があった、嚥下能力の低下の際の協力医院等の協力を得られない場合の対処方法。

⇒阿南市在宅医療・介護連携促進ワーキングで議題に挙げ、相談した結果、阿南医療センターに専門科がある。受診・相談も対応でき、必要に応じて献立等の指導も行ってくれる。また、教室も開催しているので案内や参加もできる。

【総評】

各部会長が集まったが、名前は知っているが顔が分からない、部会での悩みや不安を直接会ってコミュニケーションを図ることで連携に繋がり、部会運営及び部会間での連携もできた良い全体会となった。

今年度がスタートの年として、各部会長の想いや話し合いを行うことで、各部会の運営での各施設・事業所のレベルアップも見込めると感じた。

新型コロナウイルス感染症を鑑み、連絡や情報交換はメール等を活用してスムーズな連携に繋げる体制で部会運営を行っていく提案し、賛同を得られることができた。

今回の全体会は新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、部会長のみでの開催となったが、新型コロナウイルス感染症が落ち着けば、多くの多職種の職員で全体会の開催を行っていきたい。

今後も顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

【連絡会風景】



報告者：センター長 湯浅 祐司